

4554 富士製薬工業

今井 博文 (イマイ ヒロフミ)

富士製薬工業株式会社代表取締役社長

独自の企業価値の持続的向上に努め、当社「らしさ」を追求

◆ 診断から治療へ、がんの対象領域を拡大

当社は、「医薬品を通じて人々の健やかな生活に貢献する」ことを経営理念としている。過去 10 年の業績トレンドを見ると、売上・利益ともに年平均成長率が約 14%となっており、2002 年と 2006 年に実施した主力工場の新設が重要な成長ドライバーとなった。今期以降は、新注射剤工場の竣工により、新たな疾患領域を立ち上げていく。

医療領域別の状況として、急性期医療については、主力の画像診断薬(X 線・CT・MRI 用造影剤)をはじめ、抗がん剤と併用される副腎ホルモン剤、循環器官用薬などの注射剤を約 50 品目供給している。2015 年 9 月期までには、注射剤の新製品追加(約 40 品目)と既存の主力品の引き上げにより、売上高を 100 億円増加させたいと考えている。一方、女性医療については、思春期から老年期まで、すべての疾患の治療薬・診断薬を数多く揃えており、今後 4 年間で 15 品目程度の新製品を発売する予定である。

急性期医療の戦略としては、がんの「診断」から「治療」へ対象領域を拡大するため、開発、製造、販売の機能を、がん領域へシフトしていく。今期は新たに、がん・血液領域専門のマーケティング組織を立ち上げる予定となっており、2013 年 9 月期から 2015 年 9 月期の 3 年間で G-CSF 製剤、抗がん剤などのラインナップ拡充を図る。

DPC 対象病院に対する当社事業の状況として、2011 年 9 月期の納入実績は 1,272 施設、カバー率は 87.8%となったが、1 施設当たりの売上高は 410 万円程度にとどまっている。DPC 対象病院における主なジェネリックの需要は、造影剤、抗がん剤、抗菌剤となっており、増加する DPC 対象病院のカバー率を高め、施設当たりの売上実績を引き上げることが足元の課題である。

女性医療については、売上構成比の高い月経困難症のうち、約 9 割がルナベル配合錠となっている。今後は、避妊、更年期障害、月経困難症、感染症などの治療薬の品揃えを充実させるとともに、2014 年の申請に向けて、不妊治療薬の新薬(プロゲステロン製剤)、排卵誘発剤のバイオ後続品の開発に取り組んでいく。ジェネリックと新薬のシナジーモデルを作ることが基本戦略であり、2015 年 9 月期までは、主に月経困難症および避妊に注力し、2016 年 9 月期以降は、不妊症市場の引き上げを図っていく。

投与経路別では、無菌性保証が必要な注射剤が全体の約 7 割を占めている。ケミカルハザードをコントロールする技術を蓄積していることが、当社の強みとなっており、特に注射剤では、アンプル・バイアル・シリンジおよび水性・油性・凍結乾燥製剤など、多品種で大量の生産体制を構築してきた。一方、経口剤については、ホルモン製剤の製造がメインで、国内で唯一の経口避妊剤の製造ラインを有している。

◆ 売上・利益ともに過去最高を更新

2011 年 9 月期の売上高は 216 億 23 百万円、経常利益は 35 億 45 百万円、当期純利益は 22 億 4 百万円となり、売上・利益ともに過去最高を更新した。主力の診断用薬とホルモン剤の売上高が順調に伸びたことが要因である。設備投資額は 34 億 14 百万円(前期比 16 億 55 百万円増)となった。新工場は予定通り完成し、一部で稼働を開始している。研究開発費は 15 億 16 百万円(同 4 億 2 百万円増)となった。バイオ後続品である G-CSF 製剤

の開発が主な内容である。なお、東日本大震災では、仙台の営業所の建物が被災したが、直接的な影響は軽微であった。

営業利益は35億65百万円となり、前期比で3億33百万円増加している。研究開発費の増加(4億2百万円)、販管費の増加(4億85百万円)が減益要因となったが、ルナベル配合錠をはじめとする収益率の高い製剤の売上増で5億52百万円、その他製品の売上増で3億37百万円、増産効果などによる原価低減で3億31百万円の増益となった。当初予想(34億76百万円)との差異は、研究開発費の未消化と売上計画の未達による。

医療領域別売上高については、急性期医療が134億53百万円(前期比5.3%増)となっており、主にDPC対象病院向け診断用薬の売上が寄与した。女性医療は64億80百万円(同23.7%増)となっており、ルナベル配合錠の売上が寄与した。投与経路別では、ルナベル配合錠の売上増により、経口剤が前期比で13億28百万円増加している。売上高上位品目を見ると、急性期医療では、X線造影剤のオイパロミンが68億76百万円(同4.9%増)、イオパークが15億57百万円(同12.2%増)と堅調に推移している。女性医療では、ルナベル配合錠が22億71百万円(同68.8%増)と順調に増加した。

貸借対照表については、流動資産が205億37百万円(前期末比39億49百万円増)となっており、利益増加および2011年7月に行った増資により、現金および預金が21億円増加した。また、売上増加に伴う売掛金の増加が6億円、有形固定資産のリースバックなどによる未収入金の増加が6億円となっている。固定資産については、設備投資により92億20百万円(同10億85百万円増)となった。

負債の部では、流動負債が75億88百万円(前期末比15億30百万円増)となっており、新工場の建設に伴う銀行借入(13億円)が主な要因である。なお、この借入金は、2012年3月末までに返済する予定である。純資産の部では、資本金および資本剰余金がそれぞれ8億31百万円増加しており、2011年7月に行った公募増資(110万株)と第三者割当増資(15万株)による。

キャッシュフローについては、現金および現金同等物の期末残高が52億60百万円(前期比21億63百万円増)となった。設備投資を中心に22億88百万円の資金を使用した。営業活動による19億54百万円の資金獲得に加え、銀行借入および増資などで24億97百万円の資金を得た。

◆新工場の第Ⅱ期工事に着手

2012年9月期の売上高は234億87百万円(前期比8.6%増)を見込んでおり、増加分は、新製品と既存の主力品の伸びが半々である。営業利益は35億24百万円(同1.2%減)を見込んでおり、薬価改定に伴う販売価格の低下、減価償却費および設備リース費の増加により、売上原価率が約2ポイント増加する見込みである。当期純利益は19億86百万円(同9.9%減)を見込んでおり、退職金の計算方法の変更に伴う積み立て不足分の3億円強を特別損失に計上する。ROEは9%(同2.3%減)を見込んでいる。

売上高については、急性期医療で前期比9億円増、女性医療で8億13百万円増、その他で1億49百万円増を計画している。新製品による増加額は、急性期医療3億円、女性医療が4億円、その他が1億円である。売上高上位品目の見通しとして、急性期医療では、オイパロミンが横ばいとなり、イオパーク以下の4品目はそれぞれ1億円増加する見込みである。女性医療では、ルナベル配合錠が3億50百万円増、排卵誘発剤のフォルリモンP注が1億円増、その他が横ばいとなる見込である。

新工場の第5製剤棟は、地下1階・地上4階建となっており、約40億円を投資して第Ⅰ期工事を完了させた。今後はG-CSF製剤の生産準備、CMO事業の立ち上げ、海外輸出の具体化に取り組んでいく。第Ⅱ期工事は2012年3月の着工、2013年4月の完成を予定しており、注射剤メーカーとして更なる高度化、差別化、最大化を目指し、約32億円を投資する。世界初となる高活性・無菌製剤の多品目対応製造設備を導入し、抗がん剤事業へ本格参入する予定である。

◆G-CSF 製剤の臨床試験は順調に推移

中期経営計画の重要課題は、2014年9月期の設立50年を睨んだ既存事業の強みの引き上げと、次の半世紀に向けた新しい事業機会・戦略の具体化である。他社と競争しない独自の企業価値を持続的に向上させ、決して普通ではない当社「らしさ」にこだわり続けて勝てる戦いに集中していく。

主な重点施策の実施状況として、急性期医療では、G-CSF製剤の開発に取り組んでいるが、臨床試験第Ⅱ/Ⅲ相試験が順調に進んでおり、現在、製造販売承認申請に向けて準備を進めている。臨床試験ではおおむね順調な結果が得られており、今年末から来年にかけての製造販売承認申請を目指す。申請にあたって大きな懸念事項はなく、承認予定時期は2013年を見込んでいます。

課題であったリユープロレリン製剤の開発については、ジェネリックとしての自社開発と合わせて、新薬・新剤形での国内ライセンス取得に向け、海外企業と協議に入っている。

中期経営計画の数値目標としては、積極的な研究開発投資、設備投資により、新たな成長路線への転換を図り、2015年の売上高350億円を目指す。急性期医療では100億円の上乗せを見込んでおり、このうち60億円強が新製品である。女性医療では22億円の上乗せを予定しており、すべて新製品の増加分である。その他では13億円の上乗せを予定しており、CMO事業など新たな取り組みによる売上増を見込む。経常利益は70億円、ROEは15%以上を目指す。

◆質疑応答◆

研究開発費が未消化となった原因を教えてください。

プロゲステロン製剤の海外からの導入・開発が遅れ、まだ治験に入っていない。

CMO事業への参入について、時間軸を教えてください。

プレフィルドシリンジ製剤のCMO事業を計画しており、2013年9月期から売上が一部計上される予定である。

G-CSF製剤の海外展開について、状況を教えてください。

数社から引き合いがあり、検討中である。

(平成23年11月21日・東京)